令和7年度受講生の募集について

募集期間	令和7年7月4日（金）～7月31日（木）
受講期間	令和7年8月22日（金）～11月28日（金）
受講時間	10：00～16：30（12:30～13:30は昼休憩とします）
場所	【基　礎　編 (座学)】8月22日 ～ 10月17日　会場（秋葉原） 【現場実習編】（１）現場体験実習（10月24日 ～ 11月14日）　他社もしくは秋葉原 （２）現場改善実習（11月14日 ～ 11月28日）　所属企業もしくは秋葉原 ※ 最終日（11月28日）の全体報告会は会場（秋葉原） ※ 状況等によりカリキュラムの内容が変更になる場合があります。
募集定員	10名
受講対象	■都内中小製造業の経営幹部の方、現場責任者または経営幹部候補の方 ■生産管理や生産技術に関する経験があり、生産性向上の取り組みについて、予備知識を有する方。 ■PC入力作業の経験がある方。（Excel・PowerPointを使った講義・資料作成があります） ※ 原則、入門コースを受講済みの方　※ 業種業態等によってご受講いただけない場合があります
受講料	100,000円（税込／お一人につき）

東京都ものづくり生産性革新スクール（実践）受講企業の事例紹介

受講された企業の代表者と受講生にスクールで学ぶきっかけや、その後の活用状況について伺いました。
是非、ご視聴ください。

【掲載企業】株式会社今野製作所、石原金属化工株式会社、武州工業株式会社、中西産業株式会社

スクール利用企業の声

株式会社鬼塚硝子　代表取締役社長　鬼塚 睦子 氏

弊社では先代の頃からスクールの案内をいただき、現場改善実践のために体系化された魅力的なカリキュラムだと考えていました。経営環境の厳しさが増す環境下で、生産性を改善・革新するニーズがあり、第６期（令和３年度）から３年続けて計６名の受講生に受講してもらいました。それまでは体系立った学習の機会もなく、社内に改善を進めるための基礎知識や手法を教えることができる人材もごく少数でした。しかしながら、受講後は、このスクールで学んだ『良い設計の良い流れ』を基軸とする知識や改善手法を積極的に活用して、部署を超えて話し合ったりする姿が見られるなど、部分最適から全体最適への変化も感じることができて嬉しく思っています。弊社では、このスクール開講の目的に合わせ、中核的人材に育ってほしい社員を受講させており、今後は修了生が中心になってスクールで学んだことを社内で広く展開してもらえることを期待しています。

中西産業株式会社　取締役 鎌ヶ谷工場長 兼 技術部長　村松 道浩 氏

弊社では以前から改善活動を行っていたものの、なかなか目に見える実績を上げられずにいました。スクールに参加するようになって、２年、３年と続けて社員を受講させることで、改善手法を基礎から学んだ“仲間”が社内にふえていき、『良い設計の良い流れ』に代表されるスクールで習得した共通言語が飛び交うようになりました。必要な知識を学んだ社員同士が共通言語で会話しながら自分たちで考え、行動していく姿を見て、体質改善を実感しています。さらに、インストラクターからの客観的なアドバイスも非常に的確で、改善した成果が実績として見えてくる。実績が見えると改善している本人の自信にもつながって、さらに改善活動が活発になっています。また、他社の現場（工場）に行って学ぶ現場体験実習では、自社との違いを見て、感じることができるので、改めて自社の良い点、改善すべき点を意識できる良い機会になっています。

公益財団法人 東京都中小企業振興公社

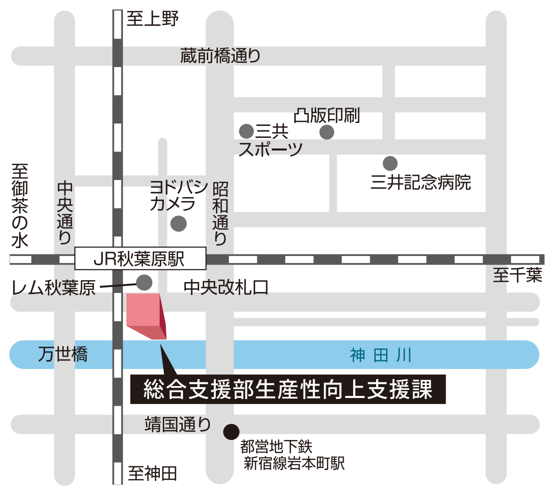
総合支援部 生産性向上支援課

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-9
東京都産業労働局秋葉原庁舎5F

● JR「秋葉原駅」中央改札口徒歩1分

TEL：03-3251-7917

E-mail　seisansei@tokyo-kosha.or.jp
ホームページ　http://www.tokyo-kosha.or.jp/



令和7年6月作成。本紙の内容は、予告なく変更する場合がございます。

2025
8／22(金)
開講

TPi Tokyo Productivity Innovation School　改善なければ革新なし！

東京都ものづくり生産性革新スクール

生産性を革新するための
『良い流れ』づくりを学ぶ
実践コース
（アドバンス）

実践コースで現場改善にチャレンジしませんか？

STEP 1 現状把握
『全体最適』の視点から現場を現認する

STEP 2 課題抽出
成果につながる真の『ボトルネック』を抽出する

STEP 3 改善活動
淀み（問題点）を除き『良い流れ』を創出する

公益財団法人 東京都中小企業振興公社

『東京都ものづくり生産性革新スクール』とは？

新たな付加価値を生み出す中核人材を育成する

当スクールは中小企業の持続的な成長において、新たな付加価値を生み出す「生産性の革新」を担う「中核人材」の育成を目的として平成28年に開講し、本年で第10期目を迎えました。この間にも、技術革新やデジタル技術の導入は進みましたが、深刻な人材不足や世の中の賃金引き上げに向けた気運の高まり、さらに原材料価格や光熱費の高騰により、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、生産性革新の重要性はますます高まっています。このような状況において、生産性を革新する方策として、『良い設計の良い流れ』を基軸とする「東京都ものづくり生産性革新スクール」実践（アドバンス）コースを開講します。

「東京都ものづくり生産性革新スクール」の構成

【入門コース】と【実践コース】により構成され、受講目的によりコースを選択し、受講することも可能です。

▶STEP 1

入門コース（5日間）

基本知識から学びたい方

▶STEP 2

実践コース（19日間）

2025 8月22日(金) 開講
受講生募集中！

より実践的に学びたい方

- 基礎編（9日間） 会場で実施（リアル）
  生産性向上の基礎を体系的に学ぶ
- 現場活用編（10日間） 研修先企業（他社）と所属企業で実施（リアル）
  基礎編で学んだことを現場で活用する

生産性向上に関する初歩的なレベルの知識を有する方を対象として開催します。生産性向上のための現場改善手法・考え方を体系的に学び、自社の現場で実習インストラクターの指導を受けながら取組み、実践力を養います。

＝

▶STEP UP

自社での実践！

現場改善の促進で生産性向上へ

▲

現場改善アドバイザー派遣が利用可能

! 入門コースは実践コースの事前学習の場（プレスクール）の場になりますので、実践コースの前に入門コースを受講して頂くことが望ましいです。

実践コースの受講方法

会場や現場体験（他社）実習はリアル形式、所属企業（自社）での現場改善実習は一部Zoomを併用して実施する場合もあります。

基礎編（座学）(9日間)

会場（秋葉原）に集合し、改善の基礎知識を体系的に学習していただきます。

現場実習編（10日間）

今年度は、現場実習を他社での体験実習と所属企業での改善実習の2パターンを計画しています。前半の基礎編（座学）で学んだ知識を活用して、インストラクターの指導を受けながら、取り組んでいただきます。現場での指導（リアル）とZoomを活用した指導（Web）※を併用して実施します。

会場（秋葉原）

現場実習（1）　現場体験実習（他社）

現場実習（2）　現場改善実習（所属企業）

※事前準備について
・PCやタブレット等の端末（PC推奨）とインターネット環境、メールアドレスが必要です。
・その他ご不明な点がありましたら、事務局※までご相談ください。
※公社・生産性革新スクール担当（裏面参照）

『東京都ものづくり生産性革新スクール』の特徴

当スクールでは、藤本隆宏氏（早稲田大学教授・東京大学名誉教授）のものづくり理論の基軸である『良い設計の良い流れ』をベースとした現場実習を含む体系的な研修プログラムをご用意しています。また、講義については、現場支援の経験が豊富な講師陣が担当いたします。スクール修了後、修了生の皆様には改善活動の中心となって活躍されることを期待します。なお、各期の修了生が自社での取組みや成果を発表して相互交流する機会として定石研究会も設けています。

企業中核人材候補 → 東京都ものづくり生産性革新スクール → 受講・修了 → 企業中核人材 → 定石研究会

1. 全体最適を目指し、藤本隆宏教授の『良い設計の良い流れ』を基軸にした現場改善活動。
2. 座学で学んだ体系的な知識を、自社での現場改善活動を通じて、体験的に理解できる。
3. スクール修了後、経験豊富なアドバイザー派遣による継続的なフォローアップも可能。

『良い設計の良い流れ』とは

現場とは、付加価値の流れる場所であり、付加価値は設計情報に宿り、「良い設計」とは付加価値を拡大することであり、「良い流れ」とは顧客へ向かう付加価値の流れの淀み（問題点、ムダ等）を発見、改善することです。生産性を向上させるためには、ロボットやITを導入する前に、まず現場の流れを妨げる要因（淀み）を取り除き、現場に『良い設計の良い流れ』を創出することが必要です。※良い設計とは、仕事の進め方・やり方、仕事のデザイン等を含め、広く考えています。

申込み・受講の流れ

1. お申込み

URLもしくはQRコードよりHPにアクセスいただき、申請フォームよりご応募ください。
申込締切　7月31日（木）
[URL]
https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/shien/genbakaizen_suishin/monodukuri_school_jissen.html
[QRコード]

2. 受付

順次お申込みを受け付けます。
※受講対象に該当しない企業様はお断りする場合があります。

3. 受講決定／受講料振込

受講が決定された方には決定通知を送付します。決定通知後、開講日までに指定する口座へ受講料をお振込みください

4. 開講

受講期間は令和7年8月22日（金）から11月28日（金）までの全19日間です。各受講日毎に1週間前を目途に教材を郵送致します。

5. 修了

※全体の出席率が8割に満たない場合、修了証を発行できない場合があります。

6. 自社の生産性革新へ

7. 定石研究会（対象：全修了生）

第10期カリキュラムと講師

特色
- 「良い設計の良い流れ」を意識した体系的なプログラム
- グループワーク、事例研究を通して実践的に学べるカリキュラム
- 前半の基礎編で得た知識をすぐに自社の改善に活かせる構成

実践コース（座学編）

No.	実施日	区分	ねらい	午前 10:00–12:30	午後 13:30–16:00	16:00–16:30
1	8月22日(金)	座学(1)（公社集合）	概論	開講式／自己紹介・所属企業の紹介（プレゼン）	ものづくり基礎概念／5S	まとめ
2	8月29日(金)		基礎	QCの基礎知識と活用(1)	QCの基礎知識と活用(2)（新QC七つ道具、VEとは）	
3	9月 5日(金)			IEの基礎知識と活用(1)	IEの基礎知識と活用(2)	
4	9月12日(金)			納期・工程・在庫管理	ものづくり会計（お金の良い流れとは）	
5	9月19日(金)			現場改善の進め方(1)：現状把握と問題点抽出	「ものと情報の流れ図」作成実習（グループ学習）	
6	9月26日(金)			現場改善の進め方(2)：重点課題抽出と改善策	「兆候シートと改善案」作成実習（グループ学習）	
7	10月 3日(金)	座学(2)（公社集合）	活用（特別講義）	特別講義1（DX化の基礎：生産現場で基本・活用事例を学び、考える）		
8	10月10日(金)			特別講義2（全体最適による問題解決（TOC理論）・改善の原点）		
9	10月17日(金)			特別講義3（『良い設計の良い流れ』とは）	特別講義4（設備保全（実践事例から学ぶ））／現場体験実習説明	

実践コース（現場改善実習編）

No.	実施日	区分	ねらい	午前	午後
10	10月24日(金)	体験実習（他社実習）	企業体験実習	体験実習(1) 見学・概要把握	体験実習(2) 現状把握（全体の流れを把握）
11	10月29日(水)		グループ活動（公社）	ものと情報の流れ図作成(現状)	問題点抽出（流れを悪くしている淀みを探る）
12	10月31日(金)		企業体験実習	体験実習(3) 兆候シート作成	体験実習(4) 改善策の検討
13	11月 5日(水)		グループ活動（公社）	ものと情報の流れ図（狙うべき姿）作成	重点課題の設定・報告資料作成
14	11月 7日(金)		企業体験実習	体験実習(5) 報告資料作成・まとめ	成果報告会（各実習先）
15	11月14日(金)	座学（公社）	成果報告会（公社）	体験実習報告会（相互交流）／自社改善活動の説明	自社改善実習(1)（現状把握（全体の流れを把握、確認））
16	11月19日(水)			自社改善実習(2) ものと情報の流れ図作成（現状）・問題点抽出	
17	11月21日(金)	改善実習（自社実習）	自社改善実習	自社改善実習(3) 兆候シート作成・改善案の検討	自社改善実習(4) ものと情報の流れ図（狙うべき姿）作成
18	11月26日(水)			自社改善実習(5) 重点課題の設定 3カ月実施計画作成	自社改善実習(6) 報告資料作成／報告会（各企業ごと）
19	11月28日(金)		成果報告会（公社）	現場実習・全体報告会（自社の改善テーマの改善実施計画立案）	修了式

～翌3月末	スクールで策定した自社の改善テーマの改善実施計画を各社で実践。必要に応じて現場改善アドバイザーがフォローします※。 ※別途、「現場改善アドバイザー派遣」の申込みが必要です。

※報告会で発表して頂く資料は、受講生自身でPCにて作成して頂く必要があります。
※状況等によりカリキュラムの内容が変更になる場合があります。

講師紹介

[主任講師] 竹中 秀夫
グンゼ㈱出身。現場での生産管理・改善活動を経て、生産性向上、教育、人事と広範囲な業務に従事。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

[講師] 国谷 晃雄
キヤノン㈱取手工場生産技術部長他、ものづくり現場を歴任。国内外において生産性革新活動を支援。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

[講師] 伊藤 雄三
米国系精密濾過フィルターメーカーにて、経営全般、工場運営に関与。企業の現場改善指導や経営アドバイスを実施。ものづくりシニア塾修了。

[講師] 堀井 求
キヤノン㈱出身。ものづくりにおける「淀みのない流れづくり改善」をモットーに現場改善に従事。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

[講師] 岸田 英俊
㈱ブリヂストンにて、設備開発、工場建設、生産技術者教育に従事。北米、中国にも勤務、中国工場董事長。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

[講師] 飛田 甲次郎
元オムロン㈱執行役員常務。関西IE協会副会長などを歴任。全体最適のマネジメントに関する最新知識をわかりやすく説明することに定評がある。

[講師] 柊 紫乃
愛知工業大学・経営学部経営学科教授。博士（経営情報科学）、専門はものづくり 管理会計など。企業現場での議論・分析から、理論の構築と検証を実施。

[講師] 林 英夫　武州工業株式会社　相談役
東京都青梅市にある同社の前社長。ITコーディネータ、日本商工会議所デジタル化推進専門委員会委員、青梅商工会議所 副会頭等を務め、広く企業のDX推進に取り組んでいる。

※講義（座学）担当講師及びインストラクターは、参加人員等により増員、変更になる場合があります。